



チャイルドが暮らす地域のご紹介

World Vision

この子を抱く、未来を抱く。

TZA-183548

チャイルド・スポンサーシップは、1人の子どもを対象にしたお金や物の提供ではありません。支援地域の人々が、子どもの健やかな成長のために必要な環境を整えていくことを支援するプログラムです。チャイルドが暮らす地域と、現地でワールド・ビジョンが実施している開発プログラムについてご紹介します。

国情報



タンザニア連合共和国

アフリカ大陸の東部に位置し、ケニア、ウガンダなど9カ国と国境を接しています。西はタンガニーカ湖、東はインド洋に面しており、インド洋上にはザンジバル島があります。首都のドドマは法律上の首都で、実際の中心都市はダルエスサラームです。タンザニア全土には約130の部族があり、イスラム教徒とキリスト教徒が40%ずつを占めています。公用語はスワヒリ語と英語です。



地域情報

ゴロワ地域開発プログラム (TZA-183548)

支援期間: 2007年～2023年*

*支援期間はプログラム準備期間を含みます。支援終了予定日や活動の目標は、予期しない突発事項やプログラムの進捗状況により、変更される場合があります。

タンザニア第2の都市アルーシャから西へ186Km、車で4時間ほどのマニヤラ州ババティ県ゴロワ郡で、ゴロワ地域開発プログラムを実施しています。支援地域ではワフォミ族が多数を占め、ワイラク族、ワラン族なども暮らしています。90%以上の住民が農業を営み、トウモロコシ、豆、ヒマワリなどを栽培しています。土地の起伏が激しい地域で、11～12月と2～5月が雨期です。近年、過放牧や森林伐採による土壌の劣化や流出が問題となっており、農産物の収穫量にも影響が出ています。



地域の課題



大地溝帯の中に位置し、土地の起伏が激しい地域です



支援地域の一般的な住居の様子



教育

- 学齢期でも**学校に通っていない**子どもが多い
- 経済的理由や家事手伝いのため**学校を中退**してしまう子どもが存在



生計向上

- 地域住民の**80%以上**が、1日1ドル以下**(貧困ライン以下)**の生活
- 年間を通じて**十分な食料が得られない**世帯が多い



教育

学齢期の子どもたちの就学率は約82%(2013年)です。経済的事情や通学路が危険、家事を手伝わなければならないなどの理由で学校に通えなかったり、途中で学校をやめてしまう子どもが数多く存在します。また、児童数に対して教室や教師の数が不足しており、教育の質の向上も課題となっています。

ワールド・ビジョンが行う支援活動

- 教育の重要性に関する保護者を対象とした啓発活動
- 小学校の校舎の建設
- 教師に対する学校運営や授業の質向上のための研修



子どもたちが継続的に質の高い教育を受けられるよう支援します



生計向上

伝統的な農法による農業の生産性は低く、気候変動による雨不足や、近年の森林減少や土壌流出の影響もあり、年間を通して十分な食料を得られない世帯が多く存在します。食料不足により栄養不良の状態にある子どもたちも少なくありません。農業生産性の向上と、作物を高く売るための生産者の組織化や知識の向上が必要です。

ワールド・ビジョンが行う支援活動

- 農家への技術指導(質の良い種子を間隔を空けて蒔く、有機堆肥の使用、雑草の処理など)
- 特に貧しい家庭への乳牛や鶏の提供
- 生産者の組織化とマーケティングや財務管理の研修
- 小規模な灌がい設備の設置支援



地域の人々が近代的な農法を導入し、より多くの収穫を得られるよう支援します



以前はお腹が空いて勉強に集中できず、成績は良くありませんでした。体の具合が悪いことも多かったです。制服やかばんが買えず、学校も休みがちでした。

支援はチャイルドの生活を変える力となります

メアリーちゃんの両親は、伝統的な農法で農業を行っていましたが、収穫量は少なく、メアリーちゃんを含む6人の子どもたちを十分に食べさせることができずにいました。

しかし、両親がワールド・ビジョンから乳牛の提供を受け、近代的な農法の研修を受けてから収穫が増えました。メアリーちゃんたちはお腹いっぱい食べられるようになり、牛乳も飲んで栄養状態が良くなりました。両親は余った作物や牛乳を売ったお金で学用品を買うことができるようになりました。

ワールド・ビジョンは、メアリーちゃんのような子どもたちが健康に、希望を持って成長していくのを助けるために、支援活動を行っています。